

災害派遣福祉チーム(静岡DWAT)



出前講座



2次被害
災害関連死の防止

要配慮者支援

災害に強い
地域づくり

皆さん、災害派遣福祉チーム
(静岡DWAT)をご存知ですか？

大規模災害発生時、一般避難所等において2次被害防止を目的に、災害時要配慮者(高齢者や障がい者、子ども等)に対して、福祉・介護の専門的な視点で支援活動を行うチームです。
静岡DWAT(事務局:静岡県社会福祉協議会)では、市町行政、自治会等で実施する防災訓練、防災講座などで出前講座を実施しています。
ぜひ、ご活用ください。



静岡DWATの活動例
(避難所の巡回支援、いんでも和室コーナーの設置)

講座内容

プログラム例

- 静岡DWATの講話(H30年西日本豪雨・R3年熱海市土砂災害における派遣活動)
- ダンボールベッド組み立て体験
- 移送支援用具の説明、操作体験など

時間

- 60分~90分程度

申込方法

所定の申込用紙を事務局へFAXしてください。
(申込用紙は、静岡県社会福祉協議会HPより)

事務局

静岡県社会福祉協議会 経営支援課

電話:054-254-5231

FAX:054-251-7508

社会福祉法人 静岡県社会福祉協議会



問合せ先(静岡DWATとの共同訓練や出張講座の依頼は下記までお願いします)

静岡県災害福祉広域支援ネットワーク

事務局:社会福祉法人静岡県社会福祉協議会福祉企画部経営支援課
〒420-8670 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館3階静岡県社会福祉協議会内
TEL:054-254-5231 FAX:054-251-7508 Email:s_dcat@shizuoka-wel.jp



福祉のチカラで
災害関連死を防ぐ

静岡県災害派遣福祉チーム 静岡DWAT

Disaster Welfare Assistance Team

— 平時の活動事例集 —



大規模災害発生時、一般避難所等において2次被害の防止を目的に災害時要配慮者(高齢者や障がい者、子ども等)に対して福祉・介護の専門的な視点で円滑に活動が行えるよう、平時の活動として、市町行政や自治会等で実施する防災訓練や防災講座などで出前講座を実施してきました。

平時から関係機関との協働を促進し、災害時にすみやかに連携することができるよう、静岡DWATの周知や啓発を目的に、平時の活動を紹介します。

県総合防災訓練（島田会場）

会場 島田市立五和小学校

参加者 島田市長寿介護課・福祉課、自主防役員、民生委員、静岡JRAT / DWAT 登録員 1名

令和4年
9/4(日)
開催



活動の様子

今回の訓練では、指定避難所における避難者への心身の状況のヒアリング、特に福祉的ケアが必要な方のトリアージ、福祉避難所の開設・受入れ調整と移送までの流れを確認しました。自主防役員や民生委員の方々に避難者役になっていただいたため、地域の方に静岡DWATを知ってもらう機会にもなったのではないかと思います。

また、今回は医師やリハビリ専門職で構成される「静岡JRAT」と合同で参加することができたため、聞き取り項目の役割分担や、合同アセスメントなど、他職種とのチームと共にお互いの専門性を活かして活動を行うというより実践に近い形の訓練になりました。

空いた時間には、地域の方々と一緒に避難所備品として市で整備されているテントの使用方法や、入り口の段差やトイレなど指定避難所である小学校内の環境を確認し、配慮が必要な方を受け入れるためにどのような工夫が必要かを意見交換することができました。



支援団体・行政インタビュー



静岡JRAT 共同代表
高橋 博達氏

当日は、静岡DWATさんと静岡JRATが、その場の協議で互いの動きを確認し、業務を分担して訓練を進めました。

静岡DWATさんの情報収集力と、医療・介護・福祉にわたる幅広い視野によって、特定の避難所のニーズを把握していただき、その情報を頼りに、我々リハビリ専門職が動くというのが最も効率的で機能的な姿と実感できました。



島田市福祉課 障害者支援係
海野 凌我氏

DWATさんの活動のメインとなる応急期では、避難所生活の中で、多種多様な要望や困りごとが発生します。そんな時、複数の福祉専門職からなるDWATさんが居てくれば、年代も状態も様々な避難者に対し、福祉的な目線から迅速で的確なケアを提供することができ、避難所運営の点からも非常に心強いと感じました。

伊東市総合防災訓練

会場 伊東市立富戸小学校 体育館

参加者 富戸区民、中学生など 約300名 / DWAT 登録員 1名

令和4年
9/1(金)
開催



活動の様子

3年ぶりの開催となった伊東市総合防災訓練では、医療救護訓練、ペット同行避難訓練、地震体験車などの訓練を実施。静岡DWATは、避難所設営訓練の中で令和3年度熱海派遣の活動報告と、ベルカ、レスキューボード、JINRIKIを活用した移動支援体験を担当しました。地域住民や中学生のほか、災害医療チーム(DMAT)の隊員の方々も積極的に体験しており、幅広い方々に静岡DWATを知っていただく機会となりました。

活動の様子は9月2日の伊豆日日新聞に掲載されました。



避難体験教室「さ〜！ぼうさい体験会」

会場 相良原子力防災センター「サーボ」

参加者 地域住民、行政など 約50名 / DWAT 登録員 2名

令和4年
11/19(土)
開催

活動の様子

今回の訓練では「避難所設営・防災講座」のプログラムを担当し、体験を中心とした約1時間の講座を実施しました。避難所での受付体験では一組のご家族に受付を体験していただくなかで、障がいのある方がご自身で受付名簿に記入することや、質問に答えることが難しく、また時間もかかってしまうことが分かりました。

避難スペースの設営では市で整備している段ボールベッドやエアマット、仮設トイレ、パーテーションをみんなで設営し、使い心地を確かめました。

また、適切な支援を届けるために、ご本人の心身の状況を福祉施設職員やご家族の皆さんに市の様式を使ってチェックしていただき、避難所で情報を集約していくことを体験してもらいました。

その他、担当外のプログラムも参加し、参加された方々が何を不安に感じ、どのように備えているか、たくさんお話を聞かせていただきました。



浜松市防災夏フェスタ2022

会場 浜松防災学習センター
参加者 地域住民 約100名(主に親子連れ)
 DWAT登録員 1名

令和4年
6/26(日)
開催



活動の様子

「防災夏フェスタ2022」で静岡DWATの啓発活動を行いました。

参加した親子の多くは小学校低学年～未就学児であったため、急速展示のみであったJINRIKIを試乗体験していただき、子どもたちも楽しめる雰囲気になりました。DWAT紹介については親御さんに簡単に説明をさせていただきましたが、ほとんどの方がDWATの存在自体も知らない方ばかりでした。「へえこんな組織あるんだ」とか「聞いたことなかった」という声が大半でした。DWATの概要や実践報告の説明の最後に、「万が一、この浜松で災害が発生してご家族が避難所生活を余儀なくされた時、皆さんのお困りごとや健康状況をピプスを着たスタッフが伺うかもしれないことを知っておいてください」と付け加えたところ、皆さん頷いてくださっていました。

防災夏フェスタのような子ども向けのイベント時には、子どもたちが楽しめるようなプログラム作成も必要と感じたイベントでした。



さつき祭にてDWATパネル展示

会場 特別養護老人ホーム さつき園
参加者 地域住民 / DWAT登録員 3名

令和元年
6/16(日)
開催



活動の様子

特別養護老人ホーム さつき園にて開催された第11回さつき祭にてDWATパネル展示及び移送用具体験を行いました。さつき園2階ロビーでDWATパネル展示と、バルコニーで移送用具体験(JINRIKI、ベルカ、レスキューポート)を実施しました。当日は、来賓に長泉町長が出席するなど、オープニングは福祉交流スペースが一杯になるほどの参加者で賑わっていました。DWATブースは主に親子連れが立ち寄り、遊び感覚で移送用具など体験をしていました。



防災啓発イベント「ふじBOUSAI」への出展

会場 富士市交流展示場 ふじさんメッセ
参加者 地域住民 / DWAT登録員 5名

令和4年
11/19(土)
開催

活動の様子

昨年に続き、今年度も富士市主催による防災啓発イベントへ出展させていただきました。今回は、DWATの貸与用品でのお世話になっている介護ショップ太助様にも出展協力していただきました。

コロナ禍での開催でしたが、前年とは規模も大きく60団体以上の出展がありました。DWATとしては、説明パネルと熱海豪雨災害での活動パネル、ベルカ、JINRIKI、段ボールベッドを展示・用具体験を行いました。



今後、応用できそうな事として



平時の活動で考えられる事として、ニーズ的に災害以外での用具の使い道や、段ボールベッドと間仕切りについては、実際体育館に設置した場合、何台ぐらいが配置できるかのイメージがつけられることも大事なのではと思いました。



静岡DWAT登録員インタビュー



社会福祉法人誠信会、社会福祉法人芙蓉会、社会福祉法人美芳会等のDWAT登録員

啓発活動の一環として、富士市圏域のDWAT登録員に声をかけ市の防災イベントに参加しました。市民から「静岡DWATって何?」と聞かれ、移送支援用具の説明や熱海市での派遣活動を紹介しました。市民の方や関係機関の方々に静岡DWATを知っていただくきっかけになりました。

社会福祉法人誠信会 静岡DWAT登録員 石原 正美氏

登録員の活動

東部支部富士圏域のDWAT登録員は、近隣の社会福祉法人に声をかけ、年に数回勉強会を開催しています。移動支援用具や段ボールベッドの使用方法を確認し、保育や介護など種別を超えたDWAT登録員同士の顔の見える関係づくりを構築しています。

特別養護老人ホーム小鹿苑 苑内研修

会場 特別養護老人ホーム 小鹿苑

参加者 小鹿苑職員 約40名 / DWAT 登録員 4名

令和4年
5/24(火)
開催

活動の様子

冒頭で事務局から静岡DWATの概要説明と熱海派遣の報告をし、災害時における福祉的な支援の必要性をご理解いただいたうえで、2つの演習を体験していただきました。垂直避難を想定したベルカの体験では、「思っていたよりも楽に持ち上がった」、「持ち上げられている間は、包まれているようで安心する」、「乗っている人が動いてしまうと危険で、対策を考える必要がありそうだ」といった意見や感想が交わされました。「ストレッチャーを搬入できない利用者宅で、実際にベルカを使用したことがある」という方もいました。

段ボールベッドの体験では、組み立ての容易さや、寝心地を確認していただきました。講座開始前に、DWAT登録員の皆さんと一緒に移送支援用具の操作方法を確認し、演習本番では登録員の皆さんが中心となって盛り上げてくれました。法人内の登録員同士のつながりづくりや、登録員所属施設からの活動理解にもつながる機会になったと感じました。



西豊田インクルーシブ防災訓練

会場 静岡市立西豊田小学校 体育館

参加者 地域住民、民生委員、行政、福祉施設、中学生など 約100名 / DWAT 登録員 1名

令和4年
12/4(日)
開催

活動の様子

自治会、民生委員、福祉団体、社協などの実行委員会で実施する「西豊田インクルーシブ防災訓練」に静岡DWATとして参加しました。感染対策として一定の間隔を空けて避難者のスペースを設け、要配慮者の方々には福祉避難スペースを設置しました。障害当事者の方々も参加し、静岡DWATがアセスメントを実施。その内容を要配慮者支援班に報告し、避難所運営会議で共有をする伝達訓練も実施しました。

また、グラウンドでは静岡市行政の協力により、ペット避難スペースの設置訓練も実施されました。



静岡県立大学短期大学部 授業「福祉経営とリーダーシップ」

会場 静岡県立大学短期大学部 教育棟

参加者 短期大学部学生 約30名 / DWAT 登録員 2名

令和3年
11/15(月)
開催

活動の様子

静岡県立大学短期大学部 介護福祉学科の授業「福祉経営とリーダーシップ」にて、介護福祉士の取得を目指す学生に熱海市土砂災害に係る静岡DWATの派遣活動についてお話をさせていただきました。

学生からは「静岡DWATの活動が知れて良かった」、「福祉専門職としての避難者のケアを学ぶことができた」などの感想をいただきました。



掛川特別支援学校防災体験学習

会場 静岡県立掛川特別支援学校

参加者 掛川特別支援学校の生徒、保護者、教員など 約30名 / DWAT 登録員 3名

令和4年
9/22(木)
開催



活動の様子

特別支援学校肢体部の生徒と保護者を対象に、段ボールベッドや移送支援用具の体験を中心とした出前講座を実施しました。特に移送支援用具では、慣れない寝心地や体が持ち上がる感覚への不安をどのように軽減するか、どのように一人ひとりの心身の状況にあわせて安全に移送支援をするか、保護者や先生方と意見交換をしながら進めることができました。

担当した講座以外にも、避難スペース作りや防災食体験など全てのプログラムに参加させていただき、生徒の皆さんや保護者、先生方からたくさんお話を聞かせていただきました。避難生活において不安に思うことを伺う中で、保護者の方から「避難所に行くという考えがない」という声も聞き、改めて障がいのある方が避難所に行き、生活することに対する心理的なハードルの高さを実感し、そこでDWATに何ができるのか、登録員の皆さんと考えたいと思いました。

なお、今回の講座では事前打合せからプログラム作り、移送支援用具貸与施設である障がい者支援施設清松園に集まってのリハーサル、そして本番の運営まで、登録員の皆さんが主体的に担っていただきました！

